

# 階上町林道施設長寿命化計画

(個別施設計画)

階 上 町

令和元年10月

## 階上町林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

### 1 基本的事項

階上町が管理する林道施設は林道橋 1 橋である。架設から約 40 年経過し、今後、橋梁の修繕や架替えに要する費用が増大する可能性がある。

近年合理的かつ効果的な手法による公共資産の維持管理が強く求められており、今後増大が見込まれる橋梁の修繕や架替え費用について、長寿命化を図り可能な限りコストを縮減していくことを基本方針とする。

### 2 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

### 3 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

### 4 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

### 5 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された施設毎の状態については別紙のとおりである。

### 6 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状況等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙のとおり計画する。

### 7 対策費用

個別施設ごとの対策費用の概算については別紙のとおりである。なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合がある。



※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	階上町
路線名	田代線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名
施設の所在地	階上町大字田代字岳道	起点からの距離	0.9km	建設年度	1980
供用年数	39	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	田代川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.0m( m)		幅員(車道幅員)	4.5m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PC単純桁			
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式			落橋防止の有無	有
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式		
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道田代線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年7月31日				
	調査結果	橋台に遊離石灰がみられる。 主桁及び橋台にはく離・鉄筋露出がみられる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化による。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和元年度～令和5年度				
	内容	主桁及び橋台の鉄筋露出部の補修を行う。				
	実施予定時期	補修に要する費用が軽微なことから、令和2年度に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 対策費用と施設機能への影響を考慮し、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	鉄筋露出部補修 約 100千円				
管理方法	長寿命化対策として、令和2年度に鉄筋露出部の補修を行うとともに、5年に1回の定期点検を実施する。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.0	0.1				0.0				
対策の内容・実施時期	定期点検	補修工				定期点検				

備考

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 22' 49.9"	
				経度	141° 32' 50.7"	
無名	林道 田代線	階上町大字田代字岳道地内				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
階上町役場 建設課	2019.7.31	田代川	有	一般道	その他	無し

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				階上町役場 建設課	点検責任者		小山竜也
点検時に記録				措置後に記録			
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	措置後の判定区分	変状の種類	措置及び判定実施年月日	
上部構造	主桁	II	はく離・鉄筋露出				
	横桁						
	床版						
下部構造	II	遊離石灰、鉄筋露出					
支承部							
その他							

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
II	遊離石灰、はく離・鉄筋露出		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点	
1980年	5m	4.50m				



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。



状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p style="text-align: center;">上部構造(主桁、横桁)【判定区分: Ⅱ】</p> 	<p style="text-align: center;">上部構造(床版)【判定区分:     】</p>
<p style="text-align: center;">下部構造【判定区分: Ⅱ】</p> 	<p style="text-align: center;">支承部【判定区分:     】</p>